

# 経営比較分析表（平成29年度決算）

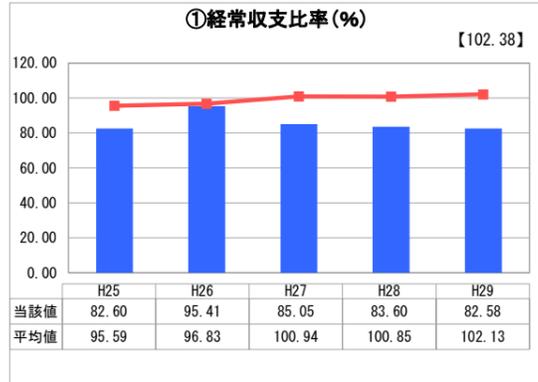
青森県 平川市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	特定環境保全公共下水道	D2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)
-	75.50	5.30	76.62	3,065

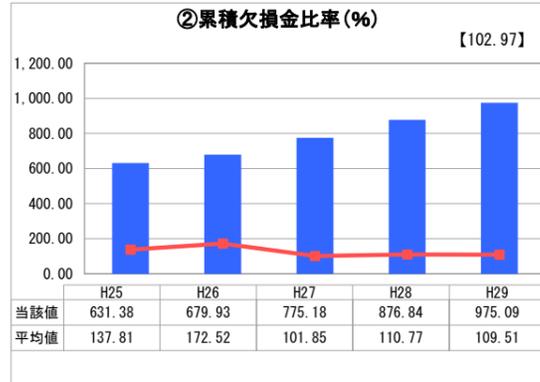
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
31,708	346.01	91.64
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km <sup>2</sup> )	処理区域内人口密度(人/km <sup>2</sup> )
1,665	0.74	2,250.00

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	平成29年度全国平均

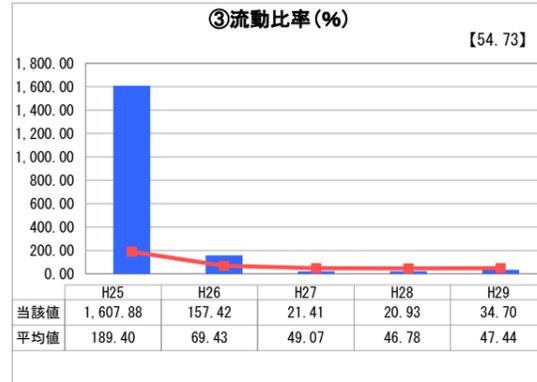
## 1. 経営の健全性・効率性



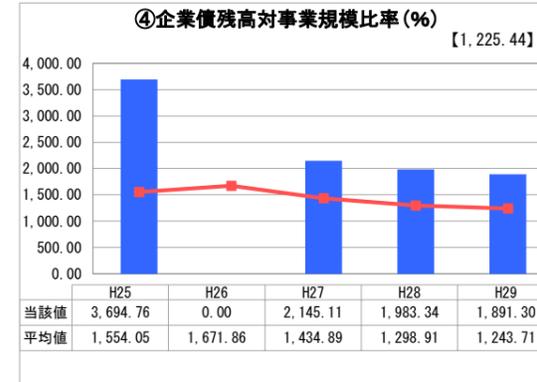
「経常損益」



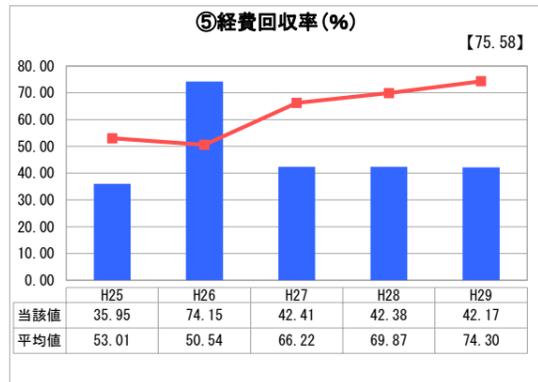
「累積欠損」



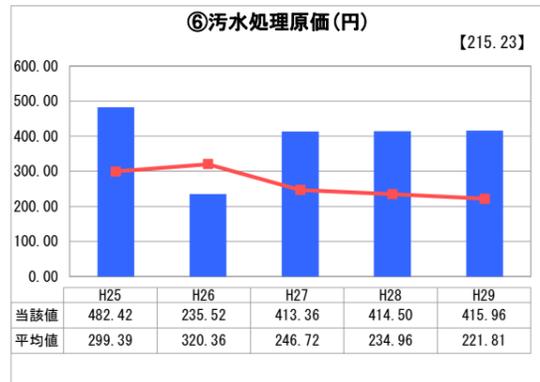
「支払能力」



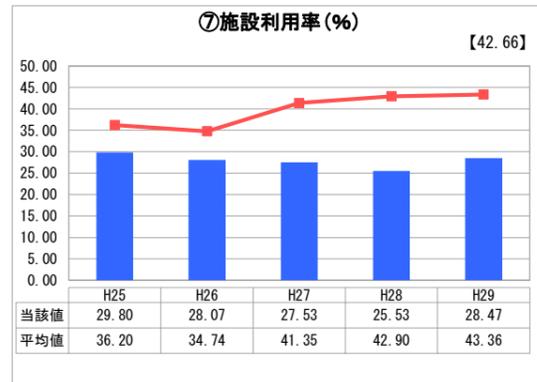
「債務残高」



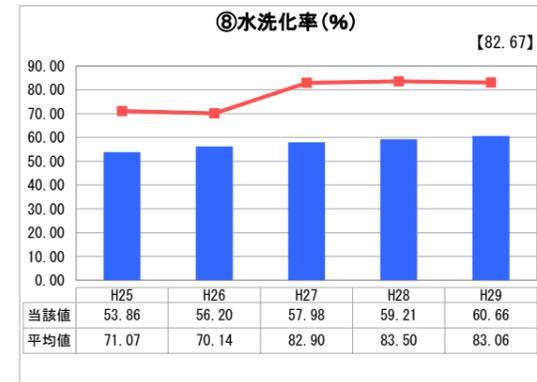
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

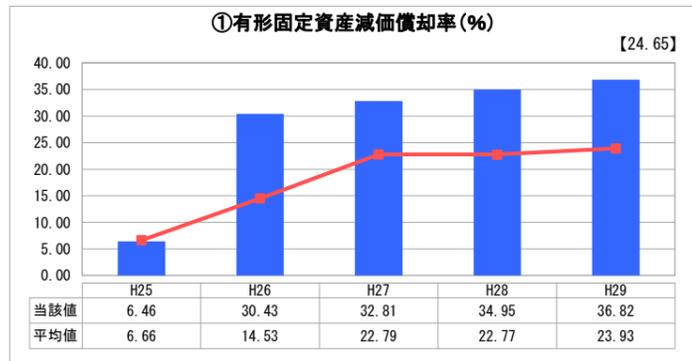


「施設の効率性」

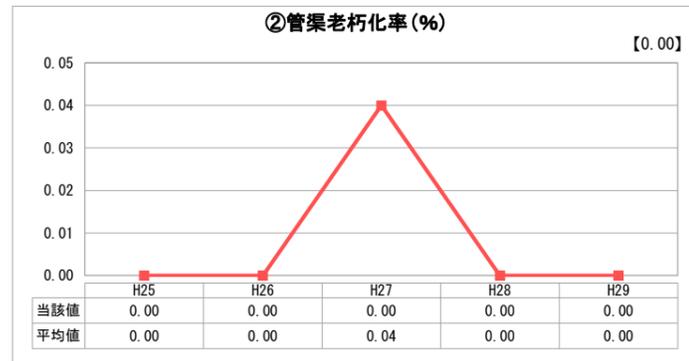


「使用料対象の捕捉」

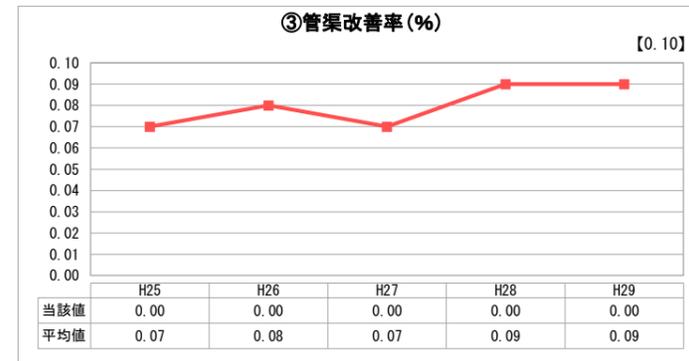
## 2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率について、過去5年間100%を下回っており、累積欠損金比率も年々増加し、類似団体と比較して9倍近い値となっている。流動比率は、平成26年度の会計基準見直しにより減少し、今年度は増加したものの類似団体と比較しても低い値を示している。1年以内に支払わなければならない負債を賄っておらず、経営改善が必要である。経費回収率においては、前年度とほぼ同じ値と横ばいに推移し、50%を下回っている。依然として使用料で賄っておらず、一般会計からの繰入金で賄われている。よって、適正な使用料収入の確保やより一層の費用削減策が必要である。汚水処理原価は類似団体と比較して、2倍近い値を示している。適正な使用料収入の確保及び汚水処理費の削減、接続率向上に向けた取組みが必要である。水洗化率は、微増傾向にあるものの、公共用水域の水質保全と料金収入増加の観点から、向上へ向けた取組みが必要である。施設利用率は計画処理能力の3分の1と過大なスペックとなっており、対応年数等を踏まえ、必要に応じて見直しも検討しなければならない。

### 2. 老朽化の状況について

有形固定資産減価償却率について、平成26年度の会計基準見直しにより大幅に増加し、類似団体と比較しても高い比率となっている。処理施設等の計画的な点検による早期修繕を行うことで、重大な故障等を未然に防ぐ必要がある。

### 全体総括

人口減少による使用料の減収は、今後も避けられないため、厳しい経営状況が続くと考えられる。よって、料金の適正化、水洗化率向上へ向けた取組み、料金収入の確保など経営改善を実施する。また、計画的な点検により早期修繕を行うことで長寿命化を図り、突発的な経費が発生しないよう維持修繕、改築更新に努める。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。  
 ※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率、管渠老朽化率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。